

偶然の産んだ駄洒落

九鬼周造

青空文庫

駄洒落だじゃれを聞いてしらぬ顔をしたり眉をひそめたりする人間の内

面生活は案外に空虚なものである。軽い笑わらいは真面目な陰鬱いんうつな日

常生活に朗ほがらかな影を投げる。ある日、私がパリで散髪をしている

と理髪師が私に向つてデ・ジャポネー（日本人）は騎兵は要らぬ
 そうですねといった。何のことかと聞くとデジャ（既に）ポネー

（小馬）だからといった。人を馬鹿にしているこの駄洒落は異郷
 の旅愁をかえつて慰めてくれた。旅愁は人生の旅にもおそいかか
 ってくる。軽い駄洒落も時には悪くない。ポール・ヴァレリイは
 同韻の二つの言葉を双児ふたごの交わす微笑に譬たとえている。偶然の戯れ
 が産んだ三つ児を二組紹介しても別に誰も咎とがめる者はないだろう。

その一つは既に新聞に載つたこともあるからある人々には旧聞に属するかも知れない。和辻哲郎君がまだ京都にいた頃のことである。西田にしだきたろう幾多郎先生をお誘いして貴船きふねへ遠足してアマゴでも食べようということになった。天野貞祐君が西田先生のところへ行つてアマゴを食べに貴船へお出になりませんかというとき、先生はアマゴのような脂ツこいものはおれはいやだと答えられた。天野君が和辻君にその由を伝えると和辻君はアマゴではなくてアマゴであることを説明した。西田先生もアマゴなら食つてもいいといわれて貴船行の計画がめでたく成立つた。これはアマノがアマゴとアマノを間違えた話である。関東育ちでカントの『純粹理性批判』の訳者である天野君はアマノは知っていたがアマゴを知らな

かつたのである。

今年の歳末にその天野君と落合太郎君と私とで寒い晩に四条通の喫茶店へ茶を飲みに行ったことがある。給仕の少女に九鬼は紅茶とビスケットをくれないかといった。ビスケットつてクツキーのことですかと少女が尋ねた。九鬼は「クツキーなら貰もらわないでもこつちから上げるよ」といつて笑つたが、何かしら胸にグキツト感じた。ビスケットという古い言葉がクツキーという新しい言葉に代つてしまつているのを初めて知つて、自分の住んでいる古い世界と少女の住んでいる新しい世界との間隔に軽い目まいを感じたのである。これはクキがクツキーでグキツトした話である。

この二つの場合で、クキがクツキーでグキツトしたとはいいや

すいが、アマノがアマゴとアナゴを間違えたといおうとするとうまく口が廻らないで多少の努力を要する。前者は同一性に基くものとして単に量的関係に還元され得るのに反して、後者は類似性の基礎に質的關係を予想しているためであろう。

青空文庫情報

底本：「九鬼周造随筆集」菅野昭正編、岩波文庫、岩波書店

1991（平成3）年9月17日第1刷発行

1992（平成4）年9月20日第3刷発行

底本の親本：「九鬼周造全集 第五卷」岩波書店

1991（平成3）年2月第2刷

入力：鈴木厚司

校正：松永正敏

2003年8月20日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

偶然の産んだ駄洒落

九鬼周造

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>